

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	石井（柳原） 恵 【ジェンダー学際研究専攻 平成23年度生】	<p>本論文は、戦後岩手県において展開した女性運動とそれを担った女性たちが提示したフェミニズムの在り方に着目して、その運動の思想と活動の特徴を明らかにするとともに、日本におけるフェミニズムの運動と歴史のなかにそれらを定位して分析することを目的とする。具体的には、岩手県北上市を拠点にフェミニズムの視点から活動が続けてきた小原麗子（1935年－）と石川純子（1942年－2008年）の実践の軌跡、そして彼女らが1984年に設立した集いの場である「麗ら舎」で継続実施されてきた「麗ら舎読書会」の活動を対象に据えて分析が進められる。また、本論文では、国家などの中央の主流派イデオロギーに基づく統治に屈服した周辺の地として東北を全体化する眼差しに抗すべく、中央の主流派に服することのない対抗力を秘めた<化外>として岩手の地を捉え、さらに、岩手に生を刻む女性たちを<おなご>という民俗語彙で表現することで、その場所性に起因して醸成される女性主体の独自の概念化が図られている。</p> <p>従来、日本のフェミニズム研究では大都市圏の運動が注視され、東北などの「周辺化」された地域における女性たちの実践を詳細に論じた先行研究の蓄積に乏しい。本論文の第一の意義は正にその空白を埋める作業としての重要性にある。第二に、本論文は、小原、石川および「麗ら舎読書会」会員に対する面接調査に基づく詳細なライフヒストリー分析、小原と石川を始めとする読書会会員たちの著作物の内容分析、そして活動記録の収集と参与観察に基づく「麗ら舎読書会」の実践分析を駆使した総合的手法による優れた実証研究として高く評価される。第三に、本論文の質の高い実証研究の手法が、岩手なる<化外>の<おなご>たちの内発過程に関する優れて「厚い」記述を生みだしている。第四に、<化外>と<おなご>の概念化は本論文独自の提唱であり、今後一層の精緻化を要するものの、その新規性が高く評価される。</p> <p>平成26年11月28日と平成27年1月20日に審査委員会を開催し、第2波フェミニズムに関する論述、<化外>の場所性、読書会活動の矛盾も含めた批判的検討の必要性、等々について論議がなされたが、その結果を受けて適切な修正が施された。</p> <p>平成27年2月2日に公開発表会と最終試験を実施した。公開発表会及び最終試験での質疑応答の内容を含め、最終審査会では、委員全員が一致して本論文が学位取得に相応しい水準に達しているものと判定した。よって、本委員会は申請者に対してお茶の水女子大学博士（学術）、Ph.D. in Gender Studies の学位授与を適当と判断する。</p>
論文題目	<化外>の<おなご>のフェミニズム -岩手・麗ら舎読書会の思想と活動の軌跡を読む-	
審査委員	(主査) 教授 棚橋 訓	
	准教授 申 琪榮	
	教授 足立 眞理子	
	教授 坂本 佳鶴恵	
教授 小玉 亮子		
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ ☒ ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>☑. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>☑. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> </div> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

